

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 畜産

発行日 平成21年 9月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 019-688-5525)

携帯電話用 QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

飼料作物

- トウモロコシの収穫作業が始まりました。圃場・品種ごとに熟期を確認して作業を進めましょう。
- 牧草の刈り取り危険帯の時期に入ります。この時期は刈り取りや施肥を避け、来春の生育にそなえましょう。
- ライ麦の播種適期となります。適期に播種を行い、播種後の鎮圧を確実にを行います。

1. トウモロコシの収穫

今年度のトウモロコシは、若干の収量減が予想される圃場もありますが、熟期は平年並みです。収穫適期になりましたら、速やかに作業を進めましょう。

- (1) 収穫適期を確認して作業に入ります(収穫適期については、第6号を参照してください)。

収穫調製に際しては圃場の水分が十分に低下してから作業を行います。

なお、倒伏したトウモロコシでは収穫作業時にハーベスタ食い込み量の変動が大きく、切断刃の損傷やトウモロコシの詰まりを起しやすいため、作業機の運行速度は控えめにし、圃場状態をよく確認します。切断長が粗くなりやすく原料密度が高まりにくいので、十分な踏圧と早期密封をして、発酵品質低下や二次発酵発生を抑制します。

- (2) トウモロコシ茎葉部に土砂の付着が多いと不良発酵の原因となるので、低刈りによる土砂の混入に十分留意するほか、収穫作業は極力晴天時に行います。登熟が進んでいない場合には収穫時期を遅らせて、土砂の自然落下を待ちます。土砂付着が多い状態で収穫しなければならない場合は、ギ酸などの添加を行って下さい。

- (3) サイレージ調製時の踏圧作業は十分行き、速やかに密封します。作業が2日以上にまたがる場合も、その日の作業終了時に必ず密封します。スタックサイロなどで、十分な踏圧ができない場合は、牧草のロールなどを重しとしてサイロの上に並べる方法も有効です。

2. 草地管理 —牧草の刈り取り危険帯—

オーチャードグラス等の寒地型イネ科牧草は、気温が低下し、日が短くなる短日条件化では茎葉の成長がしだいに鈍化して、株や根の肥大へと移り、越冬の準備態勢に入ります。

この時期に刈り取ると、来春の生育に悪影響を及ぼしますので注意が必要です。

- (1) 危険帯の時期

オーチャードグラスでは、日平均気温が15℃になる日からおよそ40日間が刈り取り危険帯の時期となります。

牧草が休眠に入る時期である日平均気温が5℃以下になるまでに、牧草の地下部に越冬のための貯蔵養分が蓄えられるよう、この時期の牧草の刈り取りは控えましょう。

なお、各地域の刈り取り危険帯の始まり(日平均気温15℃)と終わり(日平均気温5℃)の時期はおおよそ次のとおりとなりますので、参考にしてください。

(下表を見ると、日平均気温15℃と5℃の期間が40日以上ある地点がありますが、牧草が休眠する5℃以下になるまでに牧草地下部に貯蔵養分が蓄えられればよいので、日平均気温が15℃以下になってから40日以上刈り取りを控えればよいこととなります。)

	刈り取り危険帯の始まり (日平均気温15℃)	終わり (牧草休眠) (日平均気温5℃)
奥中山	9月24日	11月13日
久慈	10月4日	11月23日
盛岡	10月2日	11月19日
江刺	10月6日	11月17日
一関	10月8日	11月25日

(リアルタイムメッシュ調べ)

(2) 施肥

刈り取り危険帯の時期に施肥を行うと、牧草は養分の蓄積作業を止め、分けつや成長を始めてしまいますので、この時期は刈り取りだけでなく、施肥も控えてください。

3. ライ麦の播種作業

トウモロコシの後作としてライ麦を作付けする事例も見られます。
ライ麦の栽培のポイントは以下の通りです。

(1) 播種は可能な限り早く行います

ライ麦の収量は、播種時期に大きく左右されるため、早くに播種します。

下に地域別の播種時期の目安を示しました。播種時期がおそくなった場合は、越冬性の悪化及び分けつ不良となり収量が大きく低下するほか、更には翌春の収穫時期が遅くなり次年度のとうもろこし播種作業が遅れるので注意しましょう。

県北 9月中旬 (15日～25日頃) 県央 9月中下旬 (20日～30日頃)

県南 10月初旬 (9月25日～10月10日頃)

(2) 排水の良いほ場で栽培します

ライ麦をはじめ、麦類は湿害に弱いため、排水不良や雪解け水が溜まるようなほ場は避けます。

(3) 品種の選定

冬作物としては極早生、早生品種が適し、それ以降の品種は適しません (ペトクーザ、ハルミドリでは厳しい)。春一番や、キングライ麦を利用します。

(4) 栽培のポイント

ア 施肥

標準的な施用量 (牧草・飼料作物生産利用指針) は、窒素 8kg、リン酸 10kg、カリ 8kg です。ただし、堆肥が施用されている場合 (年2回計 5.5t/10a)、化成肥料施用量を半減 (窒素で 4kg/10a) している事例もあります。また、リン酸とカリについても、堆肥の施用状況に応じて、減じます。

また、指針では、春に追肥 (窒素 3kg/10a) をすることとしていますが、地力のあるほ場では倒伏する恐れがあります。追肥は遅まきによる分けつ不良時など必要に応じて行います。

イ 播種作業

播種量は 8kg/10a です。また、播種後には、必ずローラをかけ、鎮圧し発芽を促します。

農作物技術情報第8号は10月29日(木)発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
急ぐより 家族の笑顔を大切に 想う心で ゆとりの仕事